

Activation of peripheral leukocyte migration before spontaneous labor at term

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高水, 藍 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002149

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1954 号

Longitudinal changes of chemotactic activity of human peripheral leukocyte during pregnancy

(妊娠期間における白血球遊走能の変化)

高水 藍 (たかみず あい)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、末梢血白血球が胎盤に対する反応性が妊娠期間中にどのように推移するかを初めて観察した研究である。世界では年間 1500 万人もの児が早産として出生し、そのうち約 110 万人が亡くなっており、早産は周産期における重大な問題である。そのため、そのリスクがある女性を予測し、早期に治療介入をすることが重要である。しかし、早産の予測に関して、現時点では陰性尤度比の高い検査しか存在せず、陽性尤度比については不十分である。本研究では白血球組織侵入アッセイが妊娠中期の白血球に対しては生理学的機序が異なるため分娩予測が困難である可能性が考えられたが、妊娠後期の白血球に対しては分娩を予測する検査になりうるということがわかった。

本研究によって正常妊婦の白血球活動性の基準値が設定されることにより、以下の 2 点で臨床応用可能と考えられる。まず、真に治療が必要な切迫早産患者に適切な治療が提供できる。そして、治療が必要でない切迫早産患者に不必要な医療を行わなくて済むようになることである。また、本研究は末梢血白血球を使用しているため切迫早産の患者においては末梢血白血球を使用するため、頸管粘液や羊水といった他の早産マーカーの研究より比較的簡単にサンプル採取が可能である。末梢血白血球による早産予知は以前にはない新規の方法であり、増え続ける早産に対して一石を投じるものである。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。